

自然の家だより

令和 7年
2月28日

岐阜市少年自然の家（公益財団法人岐阜市教育文化振興事業団） 岐阜市山県北野2081番地
Tel 058-229-2888 Fax 058-229-2933 E-mail gishizen@he.mirai.ne.jp URL https://gikyobun.or.jp/gishizen/

ヒノキという木の名前を聞いたことはありますか。この時期になってくると、花粉症の原因として、スギの木と並んで名前をよく聞くとおもう。しかし、ヒノキは古くから日本人の生活と結びつきが深く、平安時代～鎌倉時代には仏像の材料に多く使われるなど、私たちの生活の中でもよく使われています。今回は、建物や家具、彫刻など、さまざまなものに使われるヒノキについて紹介します。

ヒノキの様子



葉っぱの様子（12月）



おもて表

この小さい台形で1つの葉。鱗に似ている形をしており、鱗片葉という。

濃緑色で光沢がある



うら裏

淡緑色で葉と葉の間にしろいろのY字形がみえる。



4月の様子

雄花と雌花の花期。雄花から花粉が飛び散っていく。



1月の様子

花粉が雌花について果実になり、その後、ひのきぼっくりになる。

名前の由来は？

ヒノキという名前は、「火の木」からきています。これは、昔の人がヒノキの材木をこすり合わせて火をおこしたためといわれています。岐阜市少年自然の家では、写真のような道具を使って、昔の人のような火おこし体験ができます。



←まいぎり式火おこし器

生活の中にあるヒノキたち

ヒノキは木目が美しく、香りも良いため、建物や家具、仏像、ヒノキ風呂など多岐にわたって使用されています。日本で一番古い建物とされている法隆寺は、ヒノキで建てられており、1300年以上経っていますが、まだまだ良好な状態です。私たちの身近なものでは、岐阜市のメディアコスモスの建築にヒノキが多く使われています。みなさんの生活の中にあるヒノキは、どのような形に加工されていますか。家や学校、通学路などでさがしてみると、意外とたくさん見つけることができるかもしれませんね♪